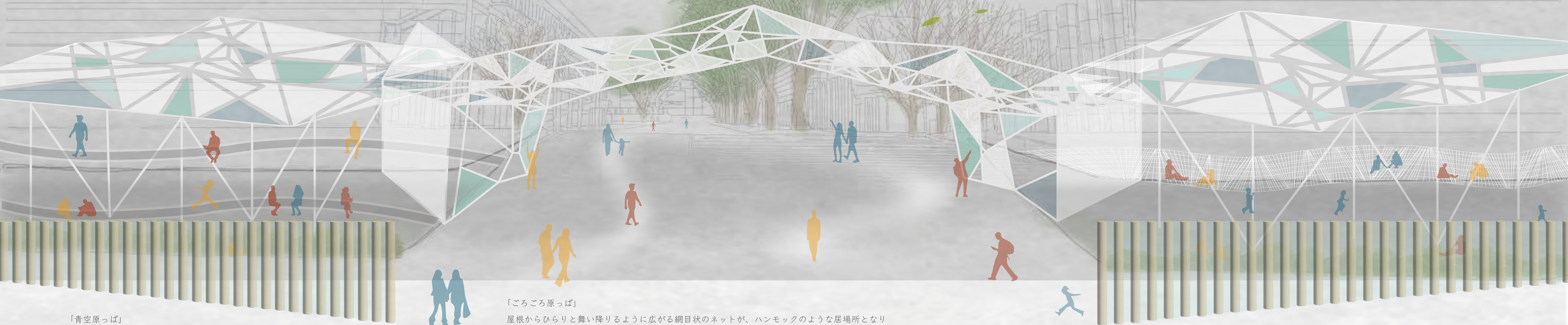


新たな芽吹き - ひらり、ひらくみんなの原っぱ -

大宮キャンパスには多様な知識や経験を持つ人々が存在する一方で、その間には日常的な交流の機会が少ない
本来、大学は多様な人々が気軽に出会い、会話を交わし、互いの知識や経験を共有することで新たな価値観や挑戦が芽吹く場所であるべきだ。
そこで、様々な人が行き交う大学の入り口をひらりひらくことで、人と人をつなぐみんなの原っぱとして提案する
ここでは知識や経験という種が人の活動によってまかれ、その種は会話によって育まれる
そして、新たな価値観や挑戦として芽吹いていくことを目指す

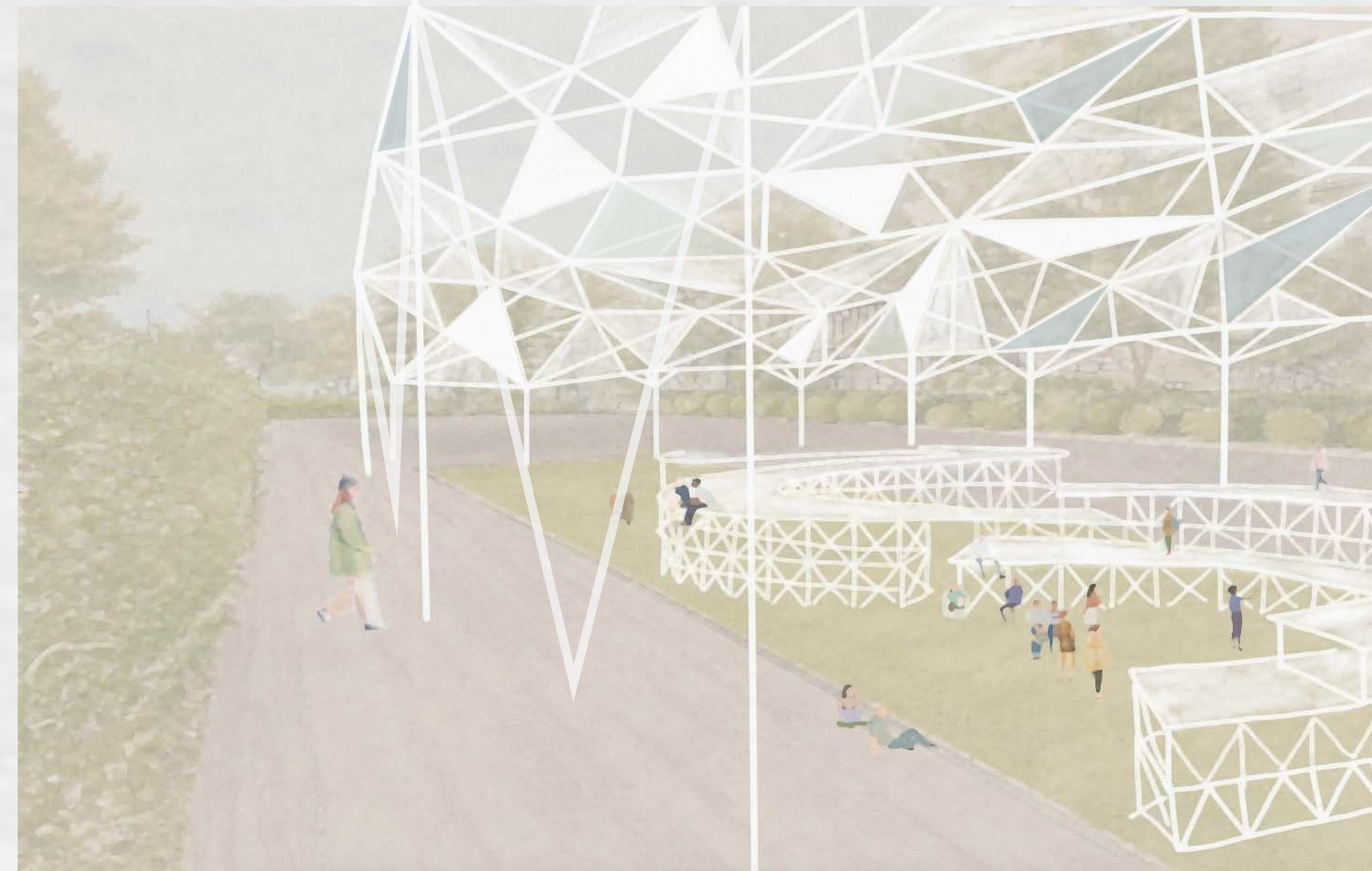


「青空原っぱ」

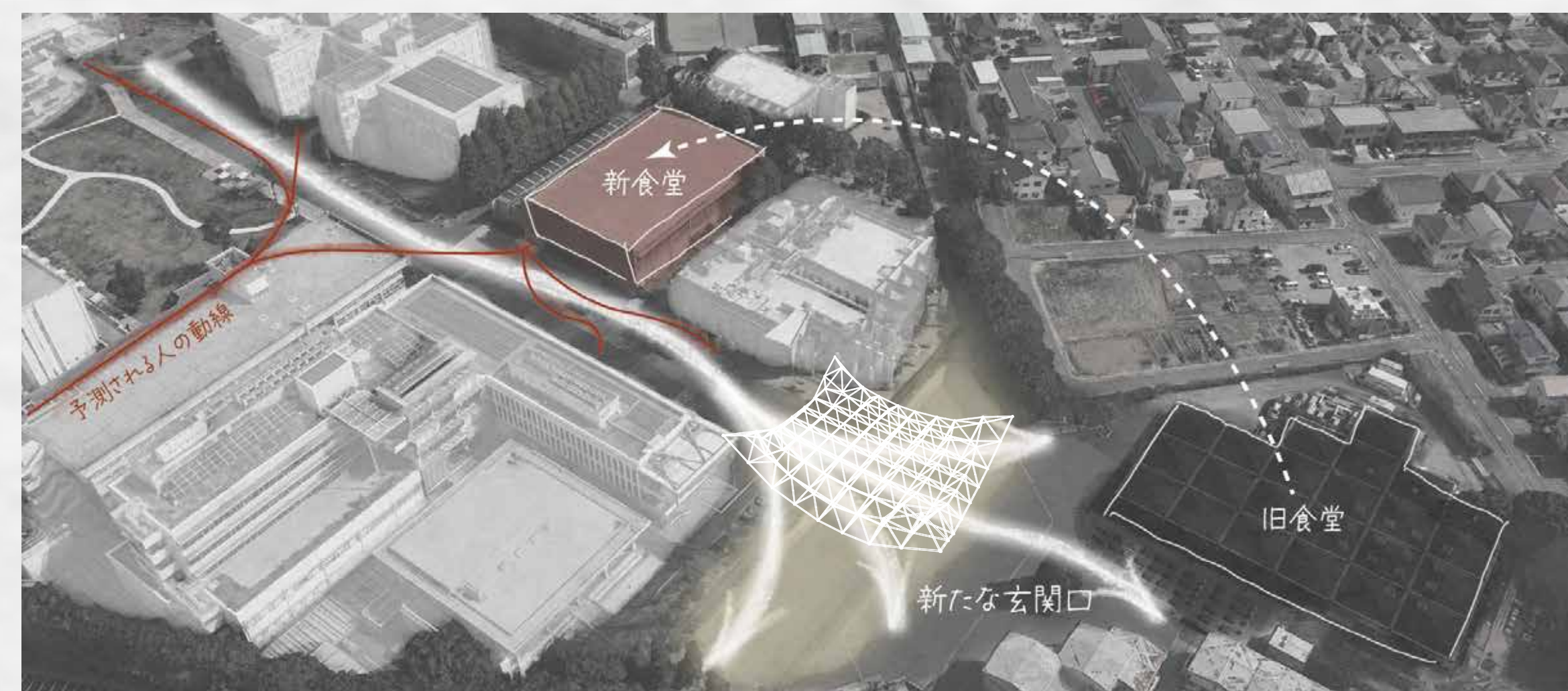
S字状のデッキは、入口側と校舎側の双方から人々の活動を眺められる居場所となる
青空教室として学生や教授、地域の人々が集い、学びや会話を通して新たなつながりを生む

「ごろごろ原っぱ」

屋根からひらりと舞い降りるように広がる網目状のネットが、ハンモックのような居場所となり
人々が自由に寝転び、思い思いに過ごせる空間をつくる
ネットの下からも上でもつろぐ人々の姿や活動が見え、視線や気配を通して上下階が緩やかにつながる

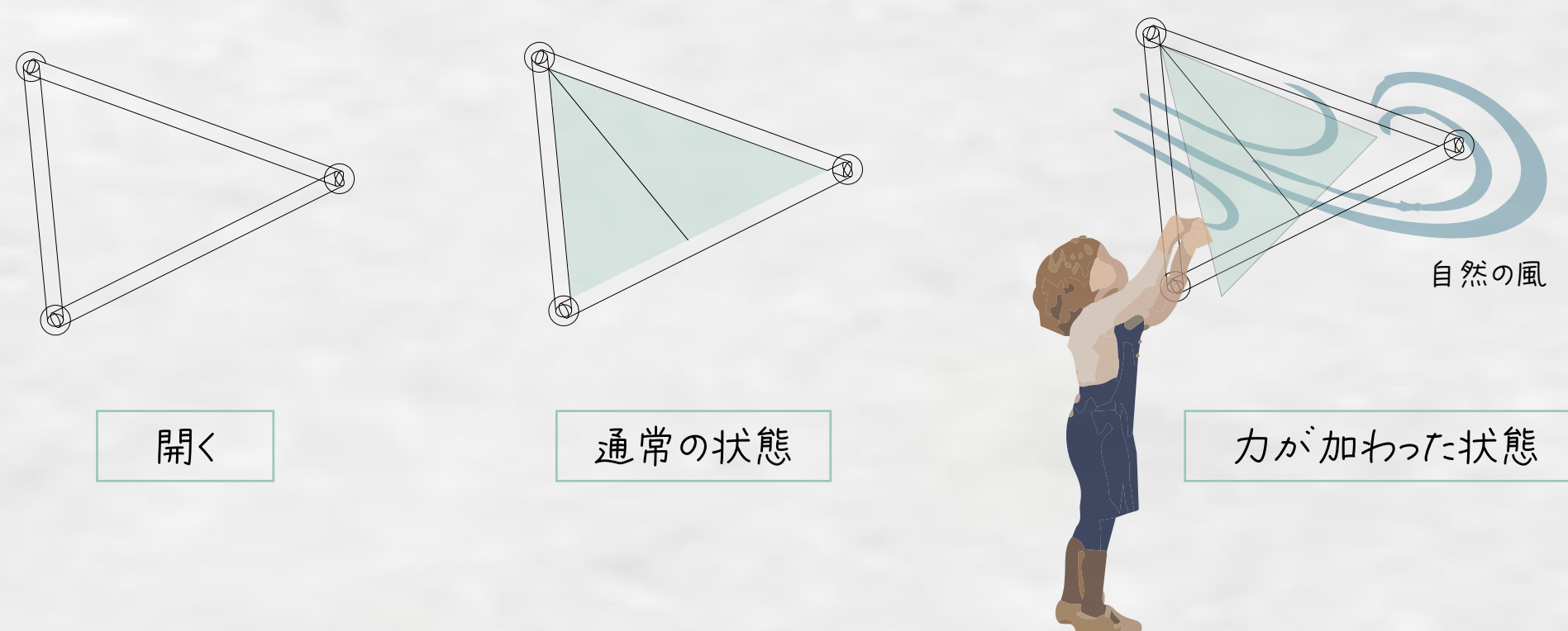


01. 計画の位置づけと役割



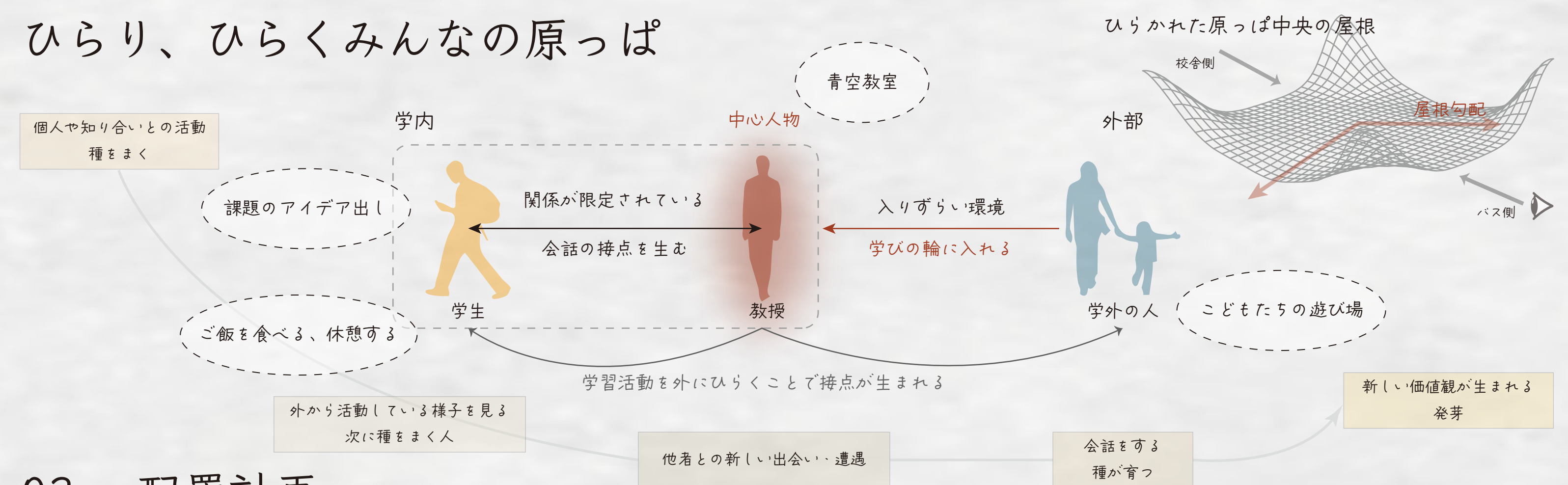
食堂の移転により、このエリアを通る学生の流れは減少すると考えられる
一方で、この場所は大学の正門に加え新設されるバス停やウェルカムストリートへ人々を導く新たな玄関口である
そこで人を引き込み、滞在や交流を生む空間とすることで大学の顔としての賑わいを創出する

02. 屋根の仕組み

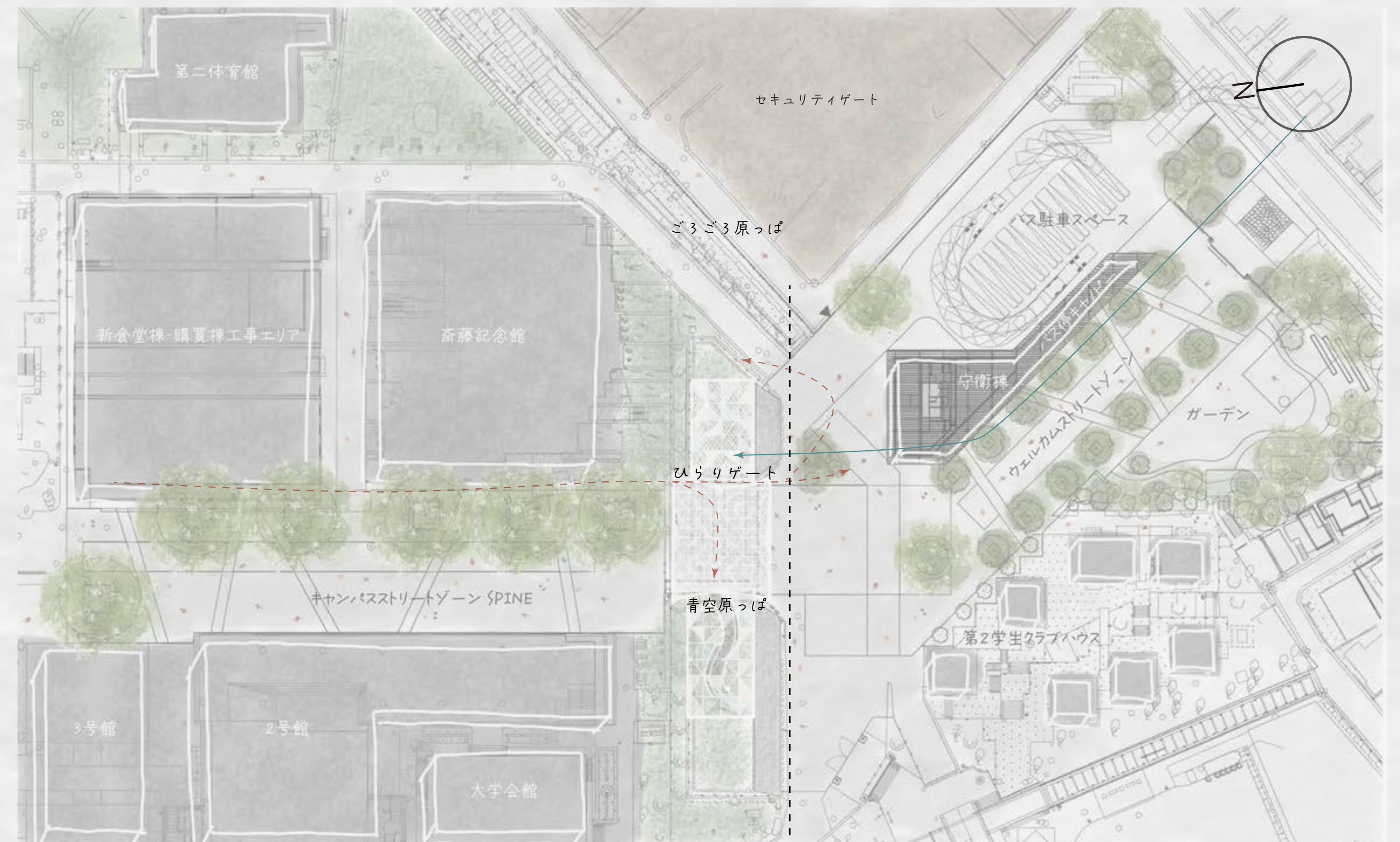


可変式の屋根は、人の手で開閉することができ日常の中に変化を生み出す
開く部分と通常の状態である透過部によって光や風、空を感じられる開放的な空間を実現した
また、屋根の変化が自然と視線を上へ誘導し、訪れる人が周囲の景色や自然に目を向けるきっかけをつくる

ひらり、ひらくみんなの原っぱ



03. 配置計画



スケール 1:500

キャンパス全体ににぎわいをもたらす玄関口となる「ひらりゲート」セキュリティゲートが開放されることで、
キャンパスが大きく手を広げるかのように地域へと開かれ学生や地域住民が自然に行き交う場を創出する